

あいであ & アイデア

牛の確保に廃物スキーストックを利用

(社)群馬県畜産協会 木村 昭彦

群馬県内で肉用牛肥育経営を行っているI牧場では、飼養する肥育牛を確保する場合に廃物となったスキーのストックを利用していただいておりますので、そのアイデアを紹介します。

アイデアの発想

この牧場では黒毛和種、交雑種の肥育牛を飼養しています。飼養方法は大部分がパドックによるものです。1つのパドックには20頭を飼養しているものもあります。

また、当牧場は2カ所の農場で約1200頭を、平均4人の従業員で飼養管理を行っています。牛を係留する時にできるだけ時間を掛けずに、かつ安全に牛を捕まえる必要があることから、この方法を考案しました。

製作方法

製作方法はいたって簡単です。使わなくなったスキーのストックを廃物利用し、ストックの先端に突いているリングのすき間に、投げ縄のように引っ張れば締まるようにした係留用のロープの輪を引っ掛けるだけです(写真1~3)。

製作費用など

写真の通り、廃物であるスキーのストックをそのまま利用しているため、製作費用は一切かかりません。また製作時間もストックをそのまま利用しているだけなので、これまたゼロです。

ストックのリングの形は、写真2のように以前の型の方が利用しやすいのですが、近年の主流である円盤型のリングの場合でも、ロープを挟むための切れ込みさえ入れれば同様に利用することができます。

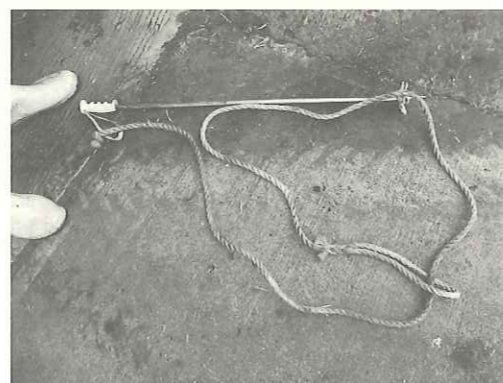


写真1 スティックの先に係留用のロープを引っ掛けるだけの簡単な作り

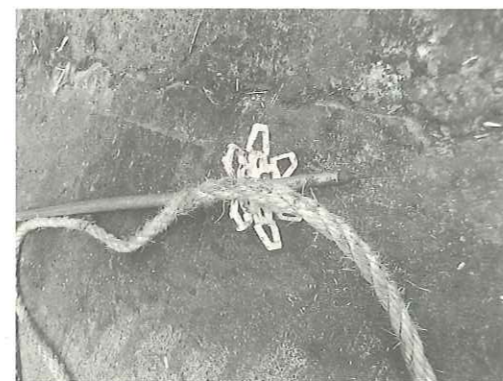


写真2 スキーストックのリング部分の拡大写真(以前主流であった型)

利用場面

同牧場では飼養期間を通して牛の体重を支える肢蹄が重要であるとの認識から、素牛を導入後、削蹄を行っています。削蹄の際、係留する必要がありますので、利用しています。

このほか、牛舎間を移動させる際、肥育期間が満了し出荷する場合など、飼育牛を係留する必要がある時に、このストックとロープを利用して、効率的に牛にロープを掛けています。



写真3 少し離れた立ち位置でも安全にロープを掛けることができる

利用方法

牛を確保する時には、牛をパドックの一角に追い込んだあと、このストックの長さを利用して、少し離れたところ、例えばパドックの外からでも、ロープの輪を牛の首に通して締めて係留します(図)。

その後、牛を保定する場合には、通常、他の牧場でも行っているように、鼻環、角などにロープを掛け、しっかりと係留した後、保定を行います。

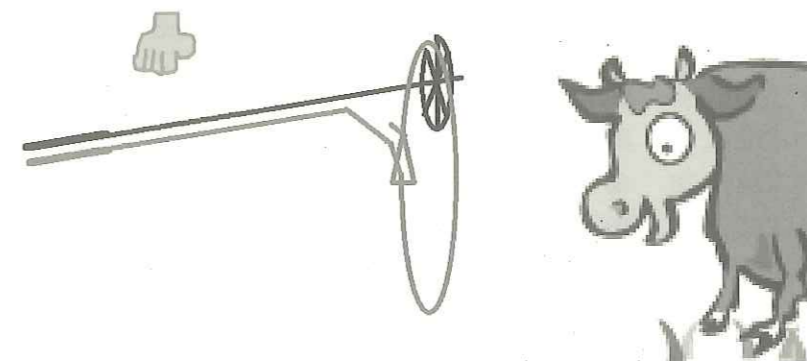


図 ロープの輪を牛の首に通して締めて係留する

その他

確保に使用するためのストックは農場のいたるところに何本も置いてあります。牛を確保する場合のほかにも、牛舎の見回り時、牛をチェックするため起立させる場合などにも利用されます。牧場にとっては、まさに「万能の杖」ともいえそうです。

(筆者：(社)群馬県畜産協会経営支援部長)

あいであ & アイデア